

北側斜面地住宅群の提案

社会システム工学コース

1175112 松井 悠成

本修士設計では、斜面地という日本に多く存在する地形において、その地形的魅力を最大限活かし、なおかつ現代の生活にも適応した住宅群の提案を行なうこと、居住地として避けられやすい市街地近郊の北側斜面地において戸建て住宅群による集住形態の可能性を提案する事の 2 つを目的としている。

日本では、斜面地において、古くから現在に至るまで大小さまざまな規模の集住形態が造られてきた。日本の国土の約 70%が「山地・丘陵地」な事を踏まえると必然的と言えるだろう。その中で、伝統的な斜面地集落は、周辺の自然環境や地形に呼応し、その土地だからこそ出来る風景を生み出している。こういった風景は現代でも魅力ある風景である。しかし現在多く存在するのは、戦後の都市拡大の過程で生み出された、斜面地を大規模造成し、地形とは無関係とも言える平地を大量に生み出して造られた斜面地住宅地である。ここには、斜面地集落が持っていたような地勢を活かした空間性が感じることが出来ず、戦後の人口急増の弊害とも言えるであろう。

また、戦後に開発された斜面地住宅群の方位に目を転じてみる。市街地近郊の斜面地は、多くが距離的利便性から開発され住宅地で埋め尽くされている。その中で、北側斜面地には観光地として放置された場所が多い。北側斜面地は、実際に居住環境としては、日当たりが悪い、湿度が高いなど問題がある場所が多い。しかし、住宅単体であれば北側斜面地での地形的特質を活かした魅力ある事例が様々な建築家によって提示されている。その事を考慮すると、市街地近郊の北側斜面地で魅力ある集住形態を計画する事も可能なのではないかと考える。

現在はかつてとは違い、将来の人口減少が叫ばれている。その状況を考えるのであれば、経済合理主義による迅速かつ粗雑な大規模造成の斜面地住宅地ではなく、微地形を活かした伝統的な斜面地集落の空間性に再度価値が見出されることは十分に考えられる。その中で、これまで培われた建設技術を適切に導入するならば、北側斜面地においても魅力ある住宅群建設が可能であろう。過去と現在を統合した未来の斜面地住宅群の提案が今こそ必要だと考える。

Abstract

Design of a collection of individual houses in a north side slope

Department of Infrastructure Systems Engineering

1175112 Yusei Matsui

This master design is a design of a collection of individual houses optimizing charms of a space structure of an old village in a slope ground, based on a modern life and wiping out minus images of a residential quarter in a north side slope.

There are many old villages in Japan having a nice view of scenery. I think space structures of their villages are rooted in the area. But space structures of modern residential area and houses are not usually rooted in the area. I think it is a problem.

A north side slope is not usually a land using residential area, even if this is a area near a city area. I think it is the reason that north side area has minus images of a residential quarter. I think it is a problem too.

Solving their problems lead to improve the present situation of modern residential area.